

関東支部 2011 年度地質見学会

「霞ヶ浦のあゆみ ー環境変遷、過去から未来へー（地質と霞ヶ浦導水路見学）」開催のお知らせ

関東支部では 2011 年度地質見学会第 2 弾としまして、日本応用地質学会と共同で、見学会「霞ヶ浦のあゆみ」の開催を予定しています。霞ヶ浦は、茨城県南東部から千葉県北東部に広がる湖沼水質保全特別措置法指定湖沼です。湖面積は 220 km²（日本第 2 位）、平均水深は 4 m、最大水深は 7 m、貯留量は約 8.5 億 m³、流域面積は約 2,160 km²と広く、茨城県の面積の約 35%を占めています。

霞ヶ浦の周辺は、約 12 万年前の下末吉海進時には古東京湾の海底に位置し、その後、最終氷期には一旦陸地化しましたが、縄文海進のときは現在の霞ヶ浦及びその周辺の低地は海の入江だったと考えられています。

霞ヶ浦の治水対策の歴史は、約 400 年前の江戸時代の利根川東遷事業にはじまり、1783 年の浅間山大噴火の影響による利根川下流域の洪水被害の深刻化、明治時代の利根川水系の大規模河川改修など、長年にわたる洪水被害との戦いでした。これらの治水対策を進める一方で霞ヶ浦の周辺では塩害も発生し、その対策により霞ヶ浦は淡水化が決定的なものとなりました。

1960 年代には、広域地域開発と首都圏の長期的な水需要に対する利水目的も含めた霞ヶ浦開発事業が実施されました。現在は霞ヶ浦の水質浄化、周辺河川の流況改善、利水を目的として、那珂川・霞ヶ浦・利根川を巨大な地下水路で結ぶ霞ヶ浦導水事業が行われています。

研修会では、霞ヶ浦周辺の地質、霞ヶ浦治水対策の歴史、霞ヶ浦導水事業により地下 50 m に建設された巨大な地下水路に関して、講師の説明を聞きながら見学することを予定しています。

皆様、ふるってご参加下さい。

記

テーマ 2011 年度見学会「霞ヶ浦のあゆみ ー環境変遷、過去から未来へー」

主催 一般社団法人 日本応用地質学会

共催 一般社団法人 日本地質学会 関東支部

開催日時：平成 23 年 11 月 26 日(土) 土浦駅東口バス乗り場付近 10:00 出発(9:50 集合)

※ 見学場所が多くご連絡の上 9 時集合と早くなる可能性もあります。

場 所：霞ヶ浦周辺および霞ヶ浦導水路内

案内者：[地層の観察] 岡崎浩子（千葉県立中央博物館）・中里裕臣（農研機構 農村工学研究所）

{導水路見学} 霞ヶ浦導水工事事務所

募集人数：35 名程度

予定ルート：土浦駅(東口) → 霞ヶ浦周辺の地層観察 → 霞ヶ浦環境科学センター見学(昼食)
→ 霞ヶ浦導水路施設見学(高浜機場) → 土浦駅(東口)

参加費：3,000 円（当日戴きます。また昼食は各自でご準備をお願いします）

その他：当日は導水路トンネル内を見学するため、ヘルメットはできる限り各自でご準備をお願いします。ヘルメットを持っていない方は、申し込みの際にその旨をお知らせください。また、長靴の準備は不要ですが、念のため濡れても汚れても良い服装でご参加ください。

申し込み：ジオ・スクーリングネット (<https://www.geo-schooling.jp/>) または担当幹事または下記事務局へお願いします。

担当幹事 緒方信一（中央開発(株) ogata@ckcnet.co.jp

日本地質学会事務局 FAX:03-5823-1156 電話：03-5823-1150

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル 6F